

Y12a 福岡県八女市星野村における地方創生プロジェクトI

田中幹人, 池田優花, 笹野美駒, 高橋あゆみ, 戸澤理紗, 守角夏海 (法政大学理工学部創生科学科)

福岡県八女市星野村は、茶の産地として高級茶「星野玉露」のブランドを持っていることに加えて、村名からイメージされる星をテーマとして（実際、2005年度全国星空継続観察では5位を記録している）、地域振興を図っている。その一環で、1990年代前半にふるさと創生一億円事業によって、星の文化館（口径100cmと65cmの望遠鏡を有する宿泊可能な公開天文台）、茶の文化館、古陶星野焼展示館を開業している。しかしながら、星野村の人口は、1943年の金山閉山をきっかけに、ピーク時の9,226人（1940年）から現在（2019年10月末）の2,401人まで減少の一途をたどり、高齢化と過疎化が深刻な問題となっている。

この問題に対して、SDGsを基礎にして地域活性化を目指す住民主体の団体「星野未来塾」が2018年11月から活動を行っており、同団体における村おこしのテーマにも「星」が含まれる。そこで我々は、第三者である研究者という立場で、アクションリサーチの手法を用いて、星野未来塾が取り組む星野村地域活性化計画に参画している。アクションリサーチとは、フィールドで起こっている課題に対して専門性を持った研究者自身が積極的に関与し、変化をもたらす研究手法である。つまり、単なる改善提案に止まることなく、研究者が地域で活動を続けて、住民が持続的かつ主体的に活性化の担い手となっていけるよう支援することが重要である。このような研究を進めるためには、インフォーマントから正確なデータを提供してもらうことが必須で、住民との信頼関係の構築にまず取り組む必要がある。関係構築の方法は多岐にわたり、例えば、天文学と文化人類学を掛け合わせて地域特有の天文文化を理解する研究もその過程が関係構築の一環になる。本講演では、星野村の紹介に加えて、住民との関係構築の過程で見えてきた地域の課題、および本プロジェクトの今後の展開についても報告する。